

教室だより

第127号

平成25年2月10日（日）

主な内容 : 講演会特集号

- | | |
|--------------------|----|
| ・ 講演 八尾高校生を励ます | 3 |
| ・ 金光八尾中学校・高等学校 講演 | 17 |
| ・ 浪速中学校・高等学校 講演 | 18 |
| ・ 『一流』に触れること | 22 |
| ・ 寄稿 大学院留学 in ロンドン | 27 |
| ・ 『一流』に触れること（2） | 32 |
| ・ 短信・編集後記 | 35 |



女の子は小学校の高学年から、男の子は中学生の頃から反抗期を迎え、中学生から高校生にかけては、家庭でも学校でも中々扱いにくい年頃になって来ます。反抗期そのものはだれもが経験する関所みたいなものですが、その時に親の気持ちや子供の気持ちを、あるいは学校の先生の考えや意図するところを相手に伝えられる『第三者』たる存在があれば、もっとスムーズに理解しあえ勉強にも打ち込めるのではないかと思います。

今年の年賀状でも少し触れていましたが、家庭教育における子育てにおいて、昔はおじいちゃんおばあちゃんといった年寄りがいて、孫をなだめたりたしなめたり励ましたりし、一方親に対してしは注意をしたりしてやがて親子の関係が修復されていくようでした。年寄りばかりでなく近所や地域のつながりも親密で、小父さんや小母さんが間に入ってくれることがありました。ところが『核家族』化により、そのような『潤滑油』あるいは『クッション』になる『第三者』の存在が少なくなっています。しかし、やはり子育てには親子だけではなく『第三者』の存在が必要だと思えます。

学校教育におきましても、先生が生徒に対して抱いている思いと、生徒諸君が学校の先生に持っている思いが必ずしも一致しているとは限らず、すれ違っている場合も多いのではないかと思います。その時にその両者を良く知る『第三者』の存在があれば、学校の先生と生徒との信頼関係がより深いものになり、生徒諸君が学校の授業に集中できるようになるのではないかと考えています。

家庭教育における『第三者』の存在を塾、特に個人塾が担えることは、これまでの保護者や生徒諸君との触れ合いの中で、『塾教育』の成果としてその実効性は確認できていました。私は学校教育においても個人塾の先生が『第三者』になり得る、むしろなった方がいいと考えています。学校の先生と塾の先生が、子供を教え育てるという原点に戻って力を合わせて指導に当たれば、きっと良い成果が期待できると考えています。ここにも『塾教育』の存在意義があると思うのです。

昨年の5月からそれを試し確認できる機会を与えていただきました。5月には府立八尾高校、7月には金光八尾中学校・高等学校、9月には浪速中学校・高等学校の先生方に、また12月25日には八尾高校の1・2年生の生徒諸君対象に、それぞれ1時間から3時間の講演をする機会に恵まれました。特に八尾高校の生徒諸君が寄せてくれました感想文を読んでいますと、感激の至りです。私が予想していた以上に『塾教育』の成果が出たのではないかと考えています。学校の先生と生徒諸君がより深い信頼関係で包まれて、生徒は自信を持って授業に臨み、勉強に対する動機付けが出来たことが伺えます。原稿通りの話が出来たわけではありませんが、八尾高校生に講演した原稿と、彼らの感想文の一部を載せました。

私の考えを実践し確かめる機会を与えていただきました、八尾高校の杉尾哲校長先生と八尾高校の先生方、金光八尾中学校・高等学校の本荘忠彦校長先生と栗山定幸副校長先生並びに金光八尾中学校・高等学校の先生方、浪速中学校・高等学校の木村智彦校長先生と宮教頭先生並びに浪速中学校・高等学校の先生方には、深く感謝申し上げます。

八尾高校生を励ます

はじめに

おはようございます。初めまして、私は須原秀和といいます。近鉄山本駅と高安駅の丁度真ん中あたりで、講師を雇わず妻と二人だけで小さな学習教室をしています。今年で34年目を迎えています。何故私がこのような席にいて、皆さんに話しかけているのか、不思議に思っていることでしょう。今年の八尾市の公立中学校で使われています『公民』の教科書には『学校応援団』の記載がありますが、実は杉尾校長先生から『八尾高校の応援団長』を頼まれまして、君たちを励ましに参りました。1・2年生対象の勉強合宿が行われるのは、120年近い八尾高校の歴史の中で君たちが初めての経験なのです。そのスタートに際し、しばらく私の話に耳を傾けて下さい。

1 公立高校校長先生の大切な役割

さて、校長先生の話が出ましたが、公立高校の校長先生の生徒諸君に対する最も大切な役割は何か、皆さんはご存知ですか？それは、大阪府教職員およそ6000人いるの中から、如何に教育熱心で優秀な教師を自分の学校に引っ張ってくるかです。君たちが生まれて2歳か3歳の頃、八尾高校には野村利夫校長先生が赴任されました。4年間八尾高校の校長先生をなさり、その後8年間奈良学園の校長先生をなさったあと退職されました。私とは非常に懇意にいただきました。野村先生は大変教育熱心で、またアイデアマンでもありました。塾長対象の説明会が同窓会館『ゆうかり』で開かれたのも野村先生の時からです。当時大阪の府立高校で初めて塾の先生対象の学校説明会をされたのは、馬路英和校長先生の天王寺高校と八尾高校だけだったと思います。その流れは現在の杉尾哲校長先生にも受け継がれていて、100年余りに及ぶ八尾高校の歴史と文化を大切にしつつも、八尾高校生の学習の実力をつけるために杉尾校長先生は全力を投球されています。この1・2年生勉強合宿もその一つです。杉尾校長先生の熱意は野村先生に勝るとも劣らないものです。そしてその結果、君たちが教えていただいている先生方の多くは、府立高校の先生方の中でもとびきり優秀な先生方の集まりなのです。君たちが八尾高校に合格できたことによって、そのような熱意のある先生方にご指導していただいていることを、先ずしっかりと自覚すべきです。

更に同窓会が君たちを支えています。八尾高校が地域の教育機関として、長い間信頼を受けて今日に至っていることを考え、今後、より一層価値ある存在になり得るためには、創立120周年を迎えることを機に、同窓会として向こう10年間総額4000万円の支援を

きるようにと取り組んでおられるとのこと。一部はすでに先行実施されていて、この勉強会もその一環なのです。このような支援を前面に押し出した取り組みは、同窓会始まって以来のことだそうです。先日お会いした同窓会副会長の小田博茂先生は『八尾高校が、公立高校としてかつての信頼に応えられるように懸命に支えていきたい』と熱く語っておられました。君たちは、脈々と続く八尾高校の歴史の中で、多くの先輩の方々からも支えていただいていることも知っておくべきだと思います。

2 八尾高校卒業生『悠二』君（浪人後神戸大学進学）の場合

これから八尾高校で学んだ教え子と今学んでいる教え子について、具体的な話をしましょう。一人は神戸大学を来春卒業する悠二君です。3年生5月までバスケットボールクラブに所属し、あまり勉強はしていませんでした。彼のお父さんは高校受験の教材や出版を手掛けておられる会社の偉いさんで、私の教室にも毎年2～3度来られていました。恩智に住んでおられるという地理的な事情もあったとは思いますが、大阪府をはじめ近畿地方のたくさんの塾をよく知っておられるお父さんです。その方に自分の息子を須原先生に預けたいと頼みに来られたことは、私にとっては大変嬉しいことでした。しかし一方で、①私の教室では高校2年生からは原則としてはめったにお引き受けしないこと、まして悠二君は3年生になっているのです。②いくら悠二君が神戸大学に行くためにこれからは勉強を頑張ると口では言っても、現実はかなり厳しいこと、③上手く希望校に合格出来たとしてもそれは私にとっては当たり前のことで、もし合格できなかった場合、悠二君のお父さんに私は顔向けできないなあという思いがあったこと等から、私は正直『困ったな』と思いました。しかし悠二君の決意は固く、『頑張る』と言い張りますのでその熱意に負けて、私は『速読英単語』をするならば、という条件を出して引き受けることにしました。

『速読英単語』はこれです。100語から250語位の英文が70個書かれてあります。これを徹底的に覚えていきます。暗記したものを書き写す『暗写』ということを行います。まとまった英文を覚えると、どういう効果があるのか。覚えた単語や文章を忘れにくいのです。単語だけ単文だけを覚えていると、覚えやすいが忘れやすく、実際には入試にあまり役には立たないのです。そして何よりも英作力に違いが出ます。京大・阪大・神戸大などの英語の二次試験においては、長文読解では差がつかないのです。英作文で差がつくのです。

1年間は52週ありますが、中間試験や期末試験などの試験勉強のときは出来ませんので、およそ35～37週として毎週2つずつ英文を覚えても1年近くかかります。これを高校1年生で1回、高校2年生でもう1回きっちり覚えておくと、3年生になって受験を迎えても、もう英語は余裕です。英語の実力がなく、3年生になっても英語の課題や予習に追われてい

るようでは他の科目の受験勉強は思うように手が回らず、国公立大学のトップ校に合格することは難しいでしょう。

本当にできるのかなと半信半疑でおりましたが、悠二君は8ヶ月足らずで『速単』を仕上げたのです。これはすごい！これなら神戸大学に行けるかもしれないあ…、と私は思い始めました。この速読英単語をきちんと出来る生徒は、国公立大学か悪くても関関同立の大学に合格できる能力があると、私は思っています。英語1科目でしかもそんな本1冊でわかるのかと思われるかも知れませんが、わかるのです。『速読英単語』を1年以内に仕上げる能力のある生徒は、他の科目もできる能力を持っていると判断できるからです。私にとって『速読英単語』は生徒諸君が国公立大学に行けるかどうかの一つのバロメーターでもあるのです。悠二君は他の科目の準備が整わず、残念ながら浪人はしましたが、翌年念願の神戸大学工学部建築学科に合格したのです。もう一年早く始めていたら現役で合格できたのではないかと思います。君たちならば今から始めれば十分間に合います。

もう一人、小学4年生から教えていて、現在2年生の生徒がいます。明日クラブの試合があるためにこの勉強合宿には参加しておりませんが、すでに『速読英単語』を一度終わり、今は2回目に入っていて、その英文を暗唱しているところです。この冬休みと3学期と春休みくらいで2回目が仕上がればと思っています。数学は青チャートの例題をB6の大きさの情報カードに問題を解き、あとで何度も繰り返し学習できるように、今その子は『実力の蓄え』を作っているところです。世の中には確かに優秀な子もいて、最後の3ヶ月かそれくらいで集中的に勉強して、スッと京大や阪大に合格していくような『離れ業』をやっているような子もいます。しかし、私も含めて多くの普通の子はそのような離れ業をすることはできません。我々がそのような優秀な子と同じ土俵で戦って、京大や阪大や神戸大に合格するためには、冬休みを挟んだセンター試験までの1ヶ月と、センター試験のリサーチが戻ってきてからの二次試験までの1ヶ月、この詰めの段階の最後の2ヶ月をどう過ごすかにあります。最後の2ヶ月を文字通り2ヶ月で終わらせてしまうのではなくて、時間の余裕のある時に『実力の蓄え』を作っておき、何度も繰り返しその『実力の蓄え』を見直して、実質半年分以上の価値ある2ヶ月にすることが出来れば、合格できるのです。3年生が始まる春休みまでにできる限り『実力の蓄え』を作り、3年生になれば折に触れてそれを反復学習し、最後の2ヶ月で5回くらいは見直せば、センター試験は良い成績でクリア出来て、2次の志望校受験に道が開かれるのです。国公立大学はセンター試験次第なのです。やればできます。

ここで少し余談になりますが、カード式数学学習法についてお話します。『教室だより』第125号に触れていることなのですが、灘高等学校に塩崎勝彦先生という方がおられました。灘高校生からは数学の神様のように思われている先生です。3・4年前に定年を機に、灘高校では非常勤講師になられ、同時に私立興国高校の進学特別顧問に就かれて、ここでも数学

の指導をされるようになりました。興国高校の塾長対象の説明会の折、副校長先生から塩崎先生を紹介され、たまたま持参されておられました先生の『数学カード』を見せていただきました。私が教え子に勧めている勉強方法と全く同じで、自分の指導方法が認められた思いがして感激したことをよく覚えています。杉尾校長先生の口癖ではありませんが『良いものはいい』のです。興国高校からここ2・3年、数こそ少ないけれど、関西医科大学や大阪薬科大学といった私立大学の他に、一橋大学や神戸大学や京都大学の国立大学の合格者が出ていますし、東大を目指している子もいるのです。塩崎先生の存在が大きいものと私は考えていますが、興国高校生やる気も大したものです。興国高校は6年間一貫教育の学校ではありません。君たち八尾高校と同じ3年間の高校生活の学校です。君たちも本気でカード式数学例題演習に取り組めば、更に素晴らしい結果を出せるのではありませんか。あれこれ手広くやるのではなくて、これ一冊に集中して何度も繰り返しやるのが合格への近道なのです。

定期試験の成績が悪い時に、学校の先生としてはその部分を補習して生徒の実力をつけさせてやりたいと思われる気持ちはわからないわけではありません。そのような『授業内容定着型補習』は一般的にどこの学校でも行われていることです。しかし私はそのような補習よりは、むしろ『年間計画型補習』の方が大学進学のことを考えた時、成果が上がると思っています。半年なり1年なり、毎週この補習に参加したら最後にはこれだけの『実力の蓄え』、例えば数学例題カードが出来上がるとか速読英単語が仕上がるとか、そのような補習を私は『年間計画型補習』と言っています。君たちは先生方をお願いして、これをやっていただいた方がいいのではありませんか。

3 『王様の剣』の話

さて、君たちはディズニーのアニメで『王様の剣』というのを知っていますか？円卓の騎士で有名なアーサー王の少年時代のエピソードを描いたものです。当時、国は乱れそれを嘆いた神様がロンドンの街に天から剣を落とし、その剣は石にささりました。その剣を石から抜くことが出来た者がこの国を治めるにふさわしい国王であると、金文字で剣には書かれてありました。国中の力自慢が剣を抜きに来ますが誰も抜くことが出来ませんので、やがてその剣のことは忘れられていきます。その国には痩せっぽちで小さな少年アーサーがいました。まわりからはワートとよばれ、12歳くらいのみなし子でした。あるお城で下働きをし、城主の息子で力は強いが馬鹿な若者の世話をしていたのですが、ワートはふとしたことから魔法使いのお爺さんマーリンに森で出会います。ワートを未来の王様と予言していたマーリンによって、魚や鳥あるいはリスに姿を変えてもらって海の世界や空の世界を冒険し、様々な経験を通して生きるための勇気と知恵と愛をワートは学んでいきます。ある時、その国で武

芸を競う大会があり、そのバカ息子のお供で試合会場に出向きますが、大切な彼の剣を持って来るのを忘れます。大目玉を食らい、すぐに剣を調達するように命ぜられて町中を探しますが、偶然見つけたのが石にささっていた剣でした。何も考えず躊躇なくそれを抜きとって息子の元に持って行きます。さあ大変！みんながその剣は『王様の剣』だと気付きます。こんな瘦せっぽちに抜けるはずがない。何かの間違いだろう。もう一度抜くところを見ようじゃないか、と試合はそっちのけで石のところに人々が集まります。もう一度剣を石にさしてからそのバカ息子が力いっぱい引き抜こうとしますが、びくともしません。アーサーがやるといとも簡単に抜けるのです。人々は彼こそが神の言われる王様に違いないと認め、今まで偉そうにやっていたバカ息子も彼の前にひざまずくのです。

この話は何を言おうとしているのでしょうか。国のリーダーとなる者は武芸や腕力だけではなく、見聞を広め、知識と知恵を身につけ、人格を磨かなければならないことを示しているのです。魔法使いマーリンは『知識こそが魔法の鍵だ』と言いたかったのです。そしてそれはまさしく、現代の世界では『何のために勉強するのか』を表現しているのです。日本では『エリート』という言葉は、勉強は出来るが身勝手に心の冷たい人間を表すとして、マイナスのイメージが強いです。しかし、本来そのような人間はエリートでもなんでもありません。単に記憶力が良いか情報処理能力に優れているだけの人間です。『真のエリート』とはグローバルな世界のリーダーとして、専門的知識を持ち、自分の頭で考え、自分で正しい判断が出来、その判断と行動に自分で責任が取れる人間、そして他人の心の痛みがわかる人間のことを言うのです。人的資源に乏しい日本は言うまでもなく、今世界に求められているのは『真のエリート』なのです。八尾高校120年に近い歴史は、そういった人材を生み出すために努力されてきたはずです。君たちはその歴史と文化に身を置く八尾高校生なのです。その自信と誇りと責任を自覚して欲しいと思います。

4 『学校の授業』と『自分の勉強』の大切さ＝具体的な学習の進め方

では具体的にどのように学習を進めていけばいいのでしょうか。それは『学校の授業』と『自分の勉強』を大切にすることです。このことは須原英数教室の教育指導理念でもありますが、この言葉に尽きると考えています。よく『塾の勉強さえしっかり受けておれば、学校の授業や成績は気にすることはない』という言葉を目にしますが、これは間違っていると思います。私の経験では、授業中居眠りをしたり内職をしたりして『学校の授業』を大切にしない子は、たいてい自分が思うほど実力は付かず、従って第1希望の大学にも合格はできていないと思います。仮に首尾よく希望の大学に進学できたとしても、自分でテーマを見つけて進めていく大学の講義では、学力を伸ばすことは難しいでしょう。

『学校の授業』を大切にすることは、ただおとなしく授業を聞いていることではありません。例えば数学を例にとりますと、先生が黒板に式を書いておられる時に『そうそう、そこから先は多分このような式を書くはずだ。やっぱりなあ…。参考書の例題にのっていた通りだ。何ならその先は先生が変わって今日は僕が指導しようか?』とか『あれ!先生は違った式を書いているぞ。これは別解だなあ。やっぱり先生はよく知っているんだなあ…。これはメモしておこう。』といったように、実際に授業中先生と直接会話をしているわけではないけれども、心の中で先生と数学の会話のキャッチボールしているような授業の受け方をすべきなのです。それが授業に参加しているという意味です。自分にとってはその授業が復習レベルに当たり、知識の確認になっていることが大切です。もう高校生なのだから自分にとってわからないところをわかるようにできればいいのです。そのための授業にすべきなのです。受動的な授業の参加ではなく能動的・積極的な授業への参加を心掛けるべきです。

『学校の授業』を大切にできるためには、もう一つの『自分の勉強』も大切にしっかりと授業の準備をしておかなければなりません。言いかえれば、それは『実力の蓄え』を作りこれを反復学習することです。例えばこれも数学を例にとりますと、この冬休みは次の3学期に学ぶ範囲をこのようなB6の無地のカードに問題を書き、裏にその問題を解いて行くのです。チャートでもフォーカスゴールドでも参考書は何でも構いません。しかも例題だけでいいのです。練習問題をする必要はありません。3学期が始まれば折に触れてカードに目を通せば、先程話したように授業の中で先生と心の会話ができるし、自分にとっては知識の確認としての授業になり得るのです。長期休暇は次の学期の蓄えを作っておく恰好の『自分の勉強』の場でもあるのです。数学1科目だけでも余裕を持つことが出来れば、クラブ活動や生徒会活動あるいは文化祭活動などに時間を取られていても、勉強に不安を覚えることはなくなります。勉強とクラブ活動などを両立させながら国公立大学を目指すことが出来るのです。将来大学で数学を研究しようと考えている生徒諸君や、数学が得意な生徒諸君にはお勧めできる勉強方法ではありませんが、数学のあまり得意でない子あるいは苦手な子は、数I・A例題300題、数II・B例題300題、合計600題をカードにして、繰り返し繰り返しやれば、センター試験で80%の160点以上は取れます。数学の好きな生徒なら90%の180点以上取れます。もちろん二次試験にも対応できます。これまでの経験から、私が保証します。誤解があったらいけませんので、念のために言っておきますが、私の話はすべて二次試験を念頭に置いたものです。ただ、センター試験の成績結果で志望校が決定される現実があるから、センター試験の話をしているだけです。

それでは私が保証できる根拠を皆さんに示しましょう。一つは私の教室の進学実績です。宣伝するつもりは毛頭ありません。確かに秀才型の優秀な生徒も何人かはいましたが、私の教え子たちの80%から90%は僕や君たちと同じ努力家たちです。初めて大学受験生を送

り出した16年前から記録し始めて、今年の春までの大学進学実績は（合格実績ではありませんよ）、居候諸君128名の内（高校2年生9月から費用をいただいていませんので、そのように親しみをこめて呼んでいます…）東大3名・京大6名・阪大12名・名古屋大学と九州大学は各1名で北大と東北大を除く旧帝国大学に23名＝約20%が進学しています。これに神戸大学6名や地方の国立大学を加えますと47名になります。更に公立大学の大阪市立大学9名などを加えますと、国公立大学にはおよそ半分の61名が進学しています。慶応・早稲田・関関同立と言った、いわゆる難関私立大学を含めると80%前後の進学実績になります。更には、その中に東大・京大などの医学部に1割に当たる13名が進学しているのです。大阪市立大学の場合は、9名の内5名が医学部に進学し、内2名は首席合格でした。自慢たらしく聞こえたらごめんなさい。自慢ではないのです。先程話をした君たちの先輩の悠二君のように、君たちと同じ普通の子たちが、きちんと勉強すれば道は開けると言いたいのです。現に医学部に進んだ13名の内、親が医者であるのはたった2名で、11名は普通の家庭の子たちです。実は岡山の県北で無医村の医師をしていた僕の無二の親友がいました。大重宗比古君と言います。彼は38度の熱が出ていても、真夜中に一つ山越え二つ山越えて車で往診に行くという、使命感に燃えた医者でした。過労がたたったのか47歳の若さで急死しました。金儲けではなく、病気で困っておられる患者さんのためになる医者こそ必要なんだ、と時々教え子にそのような話をするから医学部や薬学部を目指す生徒が多いのではないかと思います。ほとんどの子がクラブ活動や文化祭活動などをこなしながら、中には2つもクラブ活動をやりながら、自分の希望校に進んでいる子も何人かいるのです。

もう一つ、私が保証できる根拠をお見せしましょう。スライドを用意していますので見て下さい。これはある私立高校の塾長対象の説明会でいただいた資料です。今月上旬この高校に出向きまして、皆さんに見せることのお許しを得ています。男女共学にされて6年になりますが、その6年間の統計資料です。この学校は塾長対象の説明会において配布される資料が豊富で、しかもその学校にとってはつらいことでも正直に出しておられますので私は毎年出かけます。私には一つ経験的な持論があります。それは『中学入試の駿々堂模擬テストで偏差値50点以上の子や、高校入試で五ツ木模擬テスト偏差値60点以上の子は大阪大学や神戸大学に合格できる能力がある』ということです。誤解してはいけませんよ。全員が行けると言っているわけではありません。きちんと勉強して努力した者は大阪大学や神戸大学合格が非常に有望だと言っているのです。それを裏付けてくれているのがこの学校の統計資料なのです。

文理学科が出来て2年になりますが、私の考えでは高津高校や生野高校の文理学科を残念ながら落ちて後期八尾高校に入学した子、偏差値で言えば63点以上の子はおおよそ1割前後いるはずです。すなわち30人くらいはいるはずです。偏差値60点以上の生徒諸君は約3分の1の100名以上いるはずです。偏差値57点以上の成績で入学している子は80%近

くいると思います。

資料を見て下さい。黒い線で囲ったり、合計人数を書いているのは私が手を加えた部分です。八尾高校と大変よく似た偏差値レベルです。勉強だけをやっている高校ではありませんよ。クラブ活動も非常に熱心です。偏差値57点から63点まで、四角に囲った範囲の合格者合計を見て下さい。八尾高校で言えば、成績通知票のランク2から8くらいの生徒諸君でしょう。名古屋大学1人、京都大学2人、大阪大学7人、神戸大学15人、大阪市立大学6人、大阪府立大学18人合計51人の『現役』合格者がいるのです。239名中51人ですよ！これは21.3%です。八尾高校のランク2から8までの生徒は、320人×0.7ですから224名です。ランク1の生徒を除いても、まだ約50人はそれらの大学に現役合格できる可能性があると考えられるでしょう？現に柔道部にいたランク7の子が、今年大阪大学外国語学部に現役合格したではありませんか。自信を持って下さい。やればできます。

5 八尾高校生としての自信とプライドを持つ=高い志の実現に向けて

冒頭でも触れましたが、120年近い歴史の中で、1・2年生対象に勉強合宿をすることは八尾高校始まって以来のことです。先生方にはそれだけ君たちに対する期待があり、熱が入っているのです。しかもその学習内容は自由で『自学自習』を中心とするものらしいですね。実はこれは素晴らしい勉強方法なのです。なぜならば、それは京都大学の教育基本理念であって、私の教室はそれを手本としてずっとやって来て、『自学自習』の良さがよくわかっているから、そう言えるのです。少し難しい話をすれば、グラッサーという心理学者の『選択理論』の実践ともいえます。グラッサーは人間の行動を決めているのは外的要因ではなく、内的要因である自分たち自身の選択によるものだという考え方です。この考え方に基づいた教育こそ『上質の教育』だと言われていて、アメリカではかなりの実践的成果が出ているようです。『何をやっても自由』という学習方法は一見楽なように見えますが、実は最もハイレベルで難しい勉強方法なのです。なぜならば『何をやっていいのかわからない』レベルの生徒には役に立たない勉強方法だからです。表面的には同じ勉強をやっている、強制的に受身でやっている勉強つまり『やらされている勉強』と、そうではなくて自分がこれをしようと思っ取り組んでいる『自主的な勉強』とは中味は全く違うのです。心の持ち方が違うから、自主的な勉強はすればするほど実力が身について、気がつけば思ってもいなかったハイレベルな大学に合格できるようになっているのです。私の教え子はほとんどがそういう子たちです。

勉強合宿は今日と明日の2日間です。たった二日と考えるのではなくて、まるまる二日あれば『何かできる』と考えて、『私はこれをやろう！』と取り組めばいいのです。それをきっ

かけにこの冬休み、正月3日間くらいは勉強のことを忘れて思い切り遊んでもいいけど、『1週間あるいは10日でこれを仕上げるぞ!』といったメリハリのある集中した勉強をすべきです。さっき話した数学の参考書の例題演習でもいいし、英文法の問題集でもいいのです。何を勉強していいのかわからない生徒は、先生に相談に行けばいいのです。しかし、相談をしても決断を下すのは君たち自身です。君たち自身の勉強だからです。

10年ほど前に、高安中学校から天王寺高校に進学した生徒がいました。入学して最初のホームルームの時間に、担任の先生から『今から東京か京都か決めなさい!』と突然言われて、僕の教え子はわけがわからず質問したそうです。『東京か京都かって、どういうことですか?』すると先生は『おまえはアホか! 東京大学か京都大学かに決まっているやろ! 今ここで目標を決めろって言ってんねんや!』そこで私はその教え子に、君はどう答えたのかと聞きました。すると彼は『へえ〜、僕でも京都大学に行けるのか…と思って、じゃあ京都大学にします、と言いました。』というのです。この子は高安中学校で3年間、天王寺高校でも3年間ラグビーをやり、1年浪人はしましたが京都大学農学部に進学し、そこでも4年間ラグビー部に所属し、副キャプテンまで務めました。入学時の早い段階で、高い志を生徒に持たせるという天王寺高校のやり方は実にうまいと思います。真似をするわけではありませんが、君たちも京都か大阪か神戸か、今決めなさい。今からでも遅くはありません。八尾高校生の君たちならば、京都大学や大阪大学・大阪市立大学・大阪府立大学・大阪教育大学そして神戸大学といった大学に進学できる能力は十分にあるのです。あとは努力です。クラブ活動をやっているでもいい、生徒会活動をやっているでもいい、文化祭活動をやっているでもいい、その他の活動をやっているでもいいのです。しかし勉強もそれ以上にやりなさい。君たち学生の本分は勉強だからです。勉強と両立できてこそ、八尾高校が目指す文武両道が成り立ち、骨太の人格者が出来上がるのだと思います。やればできます。八尾高校生としての自信とプライドを持ち、高い志を実現してくれることを願っています。私も八尾高校の応援団長としてできる限りの協力はします。君たちも頑張りなさい! 私の話を聞いてもらって、どうもありがとう!

杉尾校長先生から紹介されて早速講演を始めています。



1) 須原先生の講演を聴いて、感想・意見・質問、あるいは新たな決意等、何でもいいですから書いてください。

1年生

*八尾高に入ったことを誇りに思った。私も上を目指して頑張っていこうと思った。先生が紹介していたZ会の速読英単語や数学カードはやってみようと思った。八尾高は、先生やPTA、同窓会、地域の人などいろいろな人に支えられていてこんないい環境で勉強できているからもっと勉強しようと思った。

*須原先生の講演は、高校に入ってから聞いた大人の話の中で一番心に響いたし良かった。熱がこもっているのがうれしかったし、学校の先生の中にもこんな人がいてほしいなと思った。自分は今まで塾に行ったことないけど、須原さんの塾なら入ってみたいなと思った。

*須原先生の講演を聞いてからとても勉強する気が出てきました。これからも八尾高校に来てもらって勉強するのに役立つような情報や参考書を教えてもらいたいです。須原先生がおっしゃったことを家に帰ってからやりたいと思います。

*講演を聞いてとてもすばらしいと思ったし、自分にも可能性があるんだなあと思った。本当にあの講演は熱意がこもっていて心に響いた。もっと努力して勉強しないといけないと思った。

*塾はいいものだなと思った。

*正直言って普段聞いている講演などはとても眠くなったりするけど、須原先生のおっしゃっていることは自分のためになることばかりで、いつもの講演とは違うなと思いました。

*もうあかんなーってあきらめてたけど、今からでもできると分かってがんばろうと思った。すごくいい経験になった。

*努力すれば天才にも勝てることが分かってうれしかった。

*すごく熱が入っていて政治家の演説みたいで、よほどその部分は大事だと感じた。

*須原先生のお話を聞いて良かったです。私は秋まで成績が伸びなかったのですが、12月のテストでぐーんと伸びました。このままもっと頑張っていこうと思っているところに先生の話聞いたので、やればもっと成績が上がるのかと思いました。先生が「八尾高生の君たちならできる！」そう言ってましたよね。本当に頑張ろうと思いました。なんて表現すればいいかわからないんですが、かっこいいなと思いました。頑張ります。

*須原先生は何かわからんけど人間的にすごいなあと思った。自分でもできるのかなと思えた。数学のカード式やってみようか迷ってます。本当に話を聞いて良かった。ありがとうございました。

*先生の話聞いてとても勇気ができました。君たちはできるんだと言ってくれた時、私も今から一生懸命頑張ったらいい大学を目指せるのだと思いました。そして色々なデータを見せてくださったり、昔の教え子の話をしてくださったり、根拠ある話をされて、とてもやる気が出ました。

*教育のことについてとても熱心で、世の中の先生みんなが須原先生のような情熱を持った先生だったら良いのになと思った。自分ではできないと思っていたけど、やる気があればできないことはないんじゃないかと思った。

2年生

*話の中で言っていた数学のカードを作ってする勉強法はやってみたいなあと思いました。勉強は誰かにやらされるものではなく、結局は自分に厳しくするしかないんだなあとあらためて感じました。

*個人の塾なのに東大や京大などの合格者を何人も出しているのはすごいと思ったし、夫婦二人だけで教えていることもすごいと思いました。私は数学も英語もとても苦手で勉強方法が分からなかったの、須原先生のおっしゃってた速読英単語を書店で見よう思うし、チャート式などの問題集をカードに書こうと思います。須原先生の話はとても分かりやすく楽しくて、聞いていて勉強もっと頑張ろう頑張れると思いました。いい体験ができました。

*須原先生のお話を聞いている最中に突然思ったことは、今まで無理だろうと思い、あこがれではあるがあきらめの気持ちで忘れかけていた大学を、目指してみようかということである。なぜその大学名が出てきて、そこに行きたいと思ったのか分からない。須原先生の生徒への眼差しとか暖かさを感じて、大学の先にある自分の人生を良い方向に進めていきたい、と人生について考えたからだろうか。

*もう少し早く聞いて始めれば良かったなあと思うことが多かった。あれだけ八尾高校のことを大切に思ってくれている人がいることは嬉しかった。今からでもできることはあると思うからから始める。

*須原先生の話聞いて、今からでも遅くない！今から真剣に勉強したら行きたいところに行けるってホンマに思った。数学のあのカードはすごかった。めっちゃキッチリ書いてて分かりやすいなああって思った。自分は塾いったことないから、どんなんが普通なんか分かんけど、スゴイねんなって思った。

2) 勉強合宿を終えて、感想・意見・新たな決意などについて書いてください。

1年生

*最初はすごく嫌でした。でもやっていくうちに集中できたし、勉強がはかどりました。久しぶりにこんなに勉強した気がします。勉強合宿に参加できて良かったです。

*自分にあった勉強ができたと思えました。はじめは参加するのが嫌だったけど、参加して良かったと思いました。ありがとうございました。

*自習の時間は集中できる空間があって良かった。講習では予習する大事さが分かったし、勉強合宿を終えて達成感を味わえたのでとてもいい経験になった。こんなに長時間勉強したのは中学時代の受験勉強以来のことだ。

*家ではこんなにも勉強することは、冬休み中はなかったと思うし、宿題も結構終わったから良かった。ご飯の時のティラミスとかスープとか豚汁美味しかった。ただ、夜11時まで勉強というのはキツイし眠たくなった。お風呂がセミナーだけでは少なく思った。これからも頑張ろうと思う。

2年生

*想像していたよりもとても集中できて、講習も早朝は受けたことがあったけど、夜に受けたことがなかったので、少し眠かったけど新鮮だったし、とても良い経験になりました。犬飼先生の豚汁も、澤田先生のティラミスも、校長先生のスープもとても美味しかったです。ありがとうございました。また機会があれば実施してほしいと思います。楽しかったです。ありがとうございました。

*とてもつらかった。一日中勉強していると頭が痛くなった。でもこんな体験はなかなかできることではないし、友達と一緒に頑張ることができたと思う。なのでこの合宿に来て良かったと思う。これからも勉強を頑張らなきゃという気持ちにさせてもらった。

*冬休みの課題をしようと思っていても手をつけられずにいたが、この勉強合宿のおかげでだいぶ課題が進んだ。卒業生のセミナーで、段階7だった先輩が現役で大阪大学に受かったり、八尾高生で京都大学に現役合格したと聞いて、自分も先輩方みたいに頑張ろうと思った。話を聞いて行きたいという気持ちを全面に出して頑張れば行きたい大学に行けるんだなあと思った。そんなカッコいい先輩方を目指して新学期は生まれ変わって学校の授業を大切にしていきたい。

*集中して勉強することができて良かった。集中をすぐネットや漫画のない環境で、一日中勉強することができたので、案外普段は「ないと無理！」と言っているものがなくても生きていけるもんなんだなと思った。一度やって少しなれた気がするので、家でも集中できると思う。ただ、合宿中は時間がきっちりと決められていたので、今やっていることを途中でやめないといけなかったのが不完全燃焼な感じがした。また機会があったら参加したいです。先生の豚汁美味しかったです。

以上すべて生徒諸君の原文通りです。

60名の定員に65名が参加した1・2年生対象の勉強合宿でした。終了後二つのアンケートに全員が応えてくれています。ここに紹介しているのはそのごく一部で三分の一にもなりません。自分が通っている八尾高校に誇りを持った子、『学校の授業』を大切にしようと思った子、大学進学に向けて勇気と自信を持ち出した子、『自分の勉強』に対してやる気を起こした子、そして何よりもアンケート（2）の2年生最初の生徒が書いていますように（同じ内容の記述が沢山ありました）学校の先生と生徒諸君との距離が身近なものになり、より深い信頼関係が結ばれたことなど、嬉しい感想文で一杯でした。私は感激しました。

照れくさくはありますが、少し手前味噌なことを言わせていただければ、この三十数年間教え子の指導において積み上げてきた実績と経験があったからこそ、八尾高校生の心を動かすことが出来たのではないかと思っています。ただそれが、想像以上の手ごたえがあったことに驚いています。八尾高校の生徒諸君！ありがとう。頑張ろうね！

『八尾高校生を励ます』講演をやらせていただけて、これまでの自分の考えを実証・確認できる機会を与えて下さったことに対して、杉尾校長先生はじめ八尾高校の先生方・同窓会の方々に、私は心から感謝しています。ありがとうございました。

できる限り具体的な資料を示して説明しました。



金光八尾中学校・高等学校 講演

7月4日（水）午後1時より、学校で指導的立場におられる運営委員会のメンバーと教科主任のおよそ20名の先生方に講演をいたしました。質疑応答の時間を20分取っておりましたが、非常に熱心なご質問が相次ぎ、90分の予定が3時間近くになってしまいました。

5月2日に本荘忠彦校長先生と栗山定幸副校長先生が教室を来訪されて、

- ・子供や親との信頼関係があつてこそ学力向上が期待できる故、私が教え子に学習への意欲（やる気）をどのように引き出し・高め・持続させているのか、その具体的な話。
- ・金光八尾中学校・高等学校の生徒の学力をより一層伸ばすために、外（塾側）から見た意見。特に教科指導を中心にした話。
- ・日々の放課後講習、長期休業日中の講習、3年生の受験対策講習など、講習にはかなりの時間を費やしているが、より効率的・効果的な講習のあり方についてのアドバイス。

といった点についての講演依頼がありました。

どれほどご期待に添えた話をできたかわかりませんが、話を聞いていただいた先生方全員の感想や意見等をA4用紙7ページにまとめられて、その資料を私の方にまで届けていただきました。私にとりましてはこの上ない貴重な資料でした。もっと厳しいご意見があるのではと覚悟をしておりましたが、好意的なものがほとんどで安堵いたしました。

金光八尾中学校・高等学校に通う教え子たちの話からは、私の意見を取り入れていただけたのかなと思える取り組みも始まっている様子で嬉しく思っています。府立八尾高校ばかりでなく、地元の高校を応援すべくこれからも微力を尽くしたいと考えています。

ありがとうございました。



浪速高等学校・中学校 講演

9月3日（月）浪速高等学校・中学校のおよそ90人の先生方を前に教育講演をいたしました。理事長木村智彦校長先生とは、母校高津高校時代の民間校長になられた時からの付き合いがあり、前号第126号の『教室だより』をお読みになった先生から講演の依頼を受けた次第です。『私が校長に就任して、この6年間で浪速高等学校・中学校は半数以上に当たる四十数名の教員が新旧交代しています。今や平均年齢は37歳です。若い先生方は情熱があり何事にも熱心に取り組めますが、経験不足という点は否めない。考えてみれば私立校は大きな塾の延長みたいなものです。担任教師は自分のクラスの塾長と考えることもできる。個人塾での長年に渡る指導の経験を若い先生方に話してやっていただきたい！』と言われ、『主体的学習への動機付けと信頼関係の構築——須原英数教室の34年から』というテーマをいただいて話をいたしました。

写真を見ていただければおわかりだと思いますが、質疑応答の後も若い先生方が列をなして質問や教育相談に来られ、その後再び30人ほどの先生方と座談会のようなひとときを持つという素晴らしい経験も味わいました。木村校長先生や講演を聞いて下さった先生方からはご丁寧な心温まるお礼状も拝受していますが、私の方こそ若いエネルギーをいただいた思いで、講演をさせていただけたことに感謝しております。ありがとうございました。

更に嬉しいことに国語科の先生方がお二人、朝日新聞の『今解き教室』を使った国語教室に興味を示され授業参観にお越し下さいました。私と妻にとりまして大変嬉しい感想文と上記お礼状に同封されておりました校長先生のブログの一部を、掲載させていただきます。



- ・本校は昨日、西成区ではないが某塾の塾長先生をお呼びして教員対象の講演会を実施した。本校歴史始まって以来初めて塾の先生が公教育を担っている学校教員相手に講演会を行った。私の判断である。
- ・私は昔勤務していた府立高校に着任した時代からの付き合いであるからあらかた10年になろうか。当時ゆとり教育と学力問題が社会的に大きな問題となりつつあった時であった。私はこれも初めて「大手塾と組んで」土曜日講習を初めてスタートさせた。
- ・それは公教育を担う公立高校が土曜日が休みになりそれでも何ら具体的な手を打とうとはしない教育公務員への「くさびの打ち込み」であった。当然組合は大騒ぎし当時マスコミは大騒動となった。
- ・あれから10年、私立高校に勤務して6年目、学校の大改革を行い「風土は一新」した。大幅に教員は若返り平均年齢が37歳となった。しかし若いと言うことはまだ「未熟」ということである。
- ・大学卒業してすぐ、「先生、先生」と呼ばれ確かに一国一城の主ではあるが唯我独尊に落ち込んで貰っては困る。「鉄は熱い内に打て」ではないが教師に最も必要なことは「広い見聞と勉強する癖」である。教師という職業に就く者こそ「生涯学習」だろう。
- ・そういう機会、風土の醸成には本人の「自己啓発」は元より組織の管理者が常日頃気にかけてやらねばならない。私立学校は考えてみれば「塾の集合体」みたいなものである。それぞれの本校の先生がこの講演会において何かを学んで欲しいと私は考えた。
- ・長年にわたる塾での指導経験から何かを学び、又塾長として組織をどのように存続させていくのか多くの示唆が得られると思ったのである。本日の場合、塾も大手塾ではなくて、個人塾が良い。ここには「手作りの良さ」がある。
- ・人間味溢れる塾の先生が居ればこそ塾は辛い時代を乗り越えて今日社会的に認知され大きな社会の教育機関として認められてきた。風雪の年月だったと想像する。この間公立も私立もどれだけ塾の先生に助けられてきたか。日本教育界における塾の存在は極めて大きい。これは私の信念でもある。
- ・私立学校の教員が公立学校の一部の教員みたいに「親方日の丸」で能天気で毎日過ごしていたらその学校の屋台骨はすぐ揺らぐだろう。本校では今やダメ教員は絶滅したがそれでもまだ勤怠いや未熟な教員はいる。
- ・様々な人の話を聞いて欲しいのである。本日の塾長先生のお話は「主体的学習への動機付けと信頼関係の構築」が講演のタイトルであった。ここに講演録があるが素晴らしい内容だ。時間は15時に始まって質疑が終わったのが18時というから如何に中身があったかという事だ。
- ・几帳面な先生だけにレジュメも論旨の展開も相当検討され準備に当たられて来たかすぐ分かる。何と教員が一度塾訪問をするというところまで話が進んだそう。私はこの報告を聞いて良かったと安堵したのである。34年間ご夫婦でやって来られた家庭塾の話は全面的に本校の教員を揺り動かしたのである。

木村智彦校長先生のブログより

須原秀和先生へ

先日は授業見学ありがとうございました。

「今解き教室」を実際に見せていただき、現在の日本をとりまく諸問題だけでなく、世界中に視野を広げることによって、生徒一人ひとりが「今」自分が「ここ」にいることを認識し、なすべきことを考えるという思考の過程を養うという点で、非常に有意義なテキストと時間だと感銘を受けました。この授業は高校でいう「現代社会」と通じるものがあるだけでなく、さらに5教科の各問題とリンクさせており、そのテーマの最新の天声人語の記事や漢字プリントもついているという中身の濃い教材であることに驚きました。

しかし私はそれ以上に、奥様の授業の質の高さと深さ、温かさに感動しました。

一つのことについての説明に対しても、さまざまな具体例等を用いて、生徒が横断的、総合的に考えを広げる手段を提示され、そのまま生徒の素養となっている場面を見ることができた喜びは計り知れません。それだけでなく、私は先日の須原先生の講演会といい、奥様の授業といい、やはり授業に対する、そして生徒一人ひとりに対する「真摯さ」というものが教育者として必要不可欠なものであると改めて痛感しました。今後の私の教師人生において、今回の先生と奥様との出会いは、一つの転機となったと思っております。私も日々、目の前に生徒に対して誠実に向き合っていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

浪速高等学校中学校 国語科 竹村志津子



須原英数教室を訪問させていただいて

この度は、朝日新聞の『今解き教室』という教材に興味を持ったことがきっかけで、奥様の国語教室を見学させていただきました。『今解き教室』の問題は科目横断的なものが多いと聞いていたので、どのような授業が展開されるのか非常に楽しみにして教室を訪問しました。

今回の教材は『国際社会と日本の外交』を扱った問題だったので、国語と現代社会の授業をあわせてうけているような感覚でした。身近なことから世界的なことまで流れるような授業展開であつという間に 90 分が過ぎ、気がつけば自分も生徒の一人になってしまっていました。

授業後、奥様に「全身で先生の話をしている生徒の姿に感心させられました。」という、「モチベーションの高い生徒が来ていますから」とおっしゃられていました。確かに最初から意識の高い生徒であったと思いますが、その生徒が意識の高さを維持しているということは、それを保つ教育が行われている証明であろうと思いました。

さらに、教室全体の意識の高さが他の生徒により影響を与えているのを見て、もう一度クラス全体の雰囲気を作るところからやっっていこうと思いました。

また、「授業準備のためにテキストを読んでいて、私自身が学ぶことが多い」というお話や自身の体験も織り交ぜて解説している姿を見て、よりよい指導するためには自己の知識・教養をさらに養わなければならない、もっと多様な経験を積みねばならないと再認識しました。そして、生徒の興味・関心の幅を広げるには様々な方法でアプローチしなければならないとも思いました。

今回の教室訪問・授業見学は、当たり前のことも含めて自分の指導方法を見直すいいきっかけになりました。そして須原先生ご夫妻の教育観に触れることができたことは、さらに教師として成長するいい機会になりました。

最後になりましたが、この度訪問の機会を与えてくださったことを感謝するとともに、須原英数教室のご発展と須原先生ご夫妻のご健勝をお祈り申し上げます。

浪速高等学校 国語科 伊藤廉往

「一流」に触れること

プロ野球の選手たちが小学生のために野球教室を開くことがあります。バッティングやピッチングの指導を受けたり、サインをもらったり言葉をかけてもらったりして、将来自分もプロ野球選手を目指す子も出てくることになります。スポーツばかりでなく勉強や習い事においても、子供の頃に『一流』の人に接したり物に触れたりすることは非常に大切なことで、その子の人生に大きく影響を及ぼすことになる場合もあると思います。

昨年12月27日と28日の両日、大阪教育大学で英語教育講座を開いておられる教授の加賀田哲也先生がボランティアで授業をして下さいました。ちょうど1年前の授業参観から4回目のご訪問でした。今回は1日目が『センター試験対策』2日目が『二次試験対策』の講義でした。すべて先生が教材をご用意して下さい、恐縮の至りです。

大学生の英語指導のご経験から、受験生の弱点と思えるポイントを重点的にご指導していただき、受験生はもちろん高校1・2年生までやる気と自信を生み出した様子です。特に先生の『発音』の美しさに生徒諸君は魅了されたようでした。二次試験問題は東大の過去問でした。語彙がわからなくても文法力で正解を見つける方法には感動いたしました。私のような昔人間は英文をいちいちきちんと訳さなければいけないような指導を受けて来ていますので、全く英文を訳さないで正解を導くことに私も『目から鱗』の思いでした。もっとも、文法力だけで誤りを見つけられるようになるには相当の文法力を身につけなくてはならないし、英文に精通していなければできないことだとは思いますが、そういう解法もあるのかと生徒諸君は未知の体験に、英語に対する考え方や見方が変わった様子でした。また英作文の添削指導はとても丁寧なご指導で、頭の下がる思いでした。

前回8月に大学院生の鈴木翔大さんとともに来訪された時は、Peter, Paul and Mary (PP&M) の Puff (The Magic Dragon) の歌を聞き、歌詞の空白部分に聞き取った単語を埋め、最後にその後の Puff 生き方について各自想像した内容を英作するというものでした。加賀田先生が提唱されています『人間教育としての英語教育』の実践の一つとしての『創造的英作文』の練習だったと思いますが、二人の高校3年生が感想文に書いていますように全く新しい感覚の英作文授業の形態だったと思います。

加賀田先生は『とんでもありません。まだまだ二流・三流です。』と否定されますが、私は『超一流』だと尊敬しています。そのようなトップレベルの英語の先生の授業を受けられる私の教え子たちは幸せだと思いますし、現に教え子たちの中には英語学習に対する姿勢が変わってきた子もいて、『一流』の先生に接することの影響力の大きさと大切さを私は実感しています。この中から将来英語の先生を目指す子が出てくるかもしれません。教え子ばかりでなく、私にとりましても素晴らしい経験をさせていただきました。塾の先生は独善的になりやすく授業もマンネリ化しやすい傾向があります。私は先生の足元にも及びませんが、これを機会に一步でも先生に近づきたいと思っています。

不才) 加賀田先生と須藤先生の教えは、何処までいっても所かあると解感してい
 ます。須藤先生から「既読者の「読者の心」と聞くと、加賀田先生に「人柄」をどう
 伝えているか、という問いに対して、非常に詳しく思ひ、自分の愛読書を
 人の前に出すように、私、大学の教授の授業も受けることが出来、改めて毎日感
 じているのだと感じました。その時も、自分も受けてくれているように
 感謝しています。貴重な経験です。ありがとうございました。



12月27日(木) 28日(金)の感想文です。

2日間わたる加賀田先生の授業を受けて、どのように感じましたか。
 素直な感想・意見等書いて下さい。【学校名 奈良学園高校】(学年 Z)

私は集中講座の間に加賀田先生と須藤先生に「読者の心」と聞くと、加賀田先生に「人柄」をどう
 伝えているか、という問いに対して、非非常に詳しく思ひ、自分の愛読書を
 人の前に出すように、私、大学の教授の授業も受けることが出来、改めて毎日感
 じているのだと感じました。その時も、自分も受けてくれているように
 感謝しています。貴重な経験です。ありがとうございました。

2日間わたる加賀田先生の授業を受けて、どのように感じましたか。
 素直な感想・意見等書いて下さい。【学校名 奈良学園高校】(学年 Z)

私は集中講座の間に加賀田先生と須藤先生に「読者の心」と聞くと、加賀田先生に「人柄」をどう
 伝えているか、という問いに対して、非非常に詳しく思ひ、自分の愛読書を
 人の前に出すように、私、大学の教授の授業も受けることが出来、改めて毎日感
 じているのだと感じました。その時も、自分も受けてくれているように
 感謝しています。貴重な経験です。ありがとうございました。



2日間にわたる加賀田先生の授業を受けて、どのように感じましたか。

素晴らしい感想・意見等書いて下さい【 学校名 小尾高校 】【 学年 2年 】

1日目はセンター問題と2日目は東京大学の問題と解きました。

加賀田先生の解説は上にもおかげで、しっかりと解き方も教わりました。

2日目の問題は重要な問題ばかりだったので、しっかりと勉強しました。

私はリスニングが苦手だったので、あまり点数がとれませんでした。

5日目のセンター問題はリスニングも最初CDを聞いたときも

読んでも「だ」と感じました。でも解説を聴くと、しっかりと

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

これ、センターの感じ英語を聞くと、聞こえてきました。

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

これ、センターの感じ英語を聞くと、聞こえてきました。

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

これ、センターの感じ英語を聞くと、聞こえてきました。

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

これ、センターの感じ英語を聞くと、聞こえてきました。

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

これ、センターの感じ英語を聞くと、聞こえてきました。

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

これ、センターの感じ英語を聞くと、聞こえてきました。

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

これ、センターの感じ英語を聞くと、聞こえてきました。

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

これ、センターの感じ英語を聞くと、聞こえてきました。

1.5倍の速さで聞くと、自然に普通で聞こえてきました。

2日間、おかげで勉強が面白くなりました。



2日間にわたる加賀田先生の授業を受けて、どのように感じましたか。

素晴らしい感想・意見等書いて下さい【 学校名 天王寺高校 】【 学年 1年 】

授業の感想はズバリ、非常に分かりやすかったです。という感じで

です。東京大学の問題の解説は、長文は特に、大まかに

解説が読めていくのにはかかかか、校心をついていくという感じ

です。と、この分が、手前が、たまたま、という感じで、この分

問題は、自分が解けても、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。

これは、先生が何回も、おっしゃて、たまたま、という感じで、この分

は、まだまだ知識が定着して、いい感じだと思います。



大学院留学 in ロンドン

School of Oriental and African Studies (SOAS), University of London

MA Theory and Practice of Translation

原 知代

留学のきっかけは？

よく聞かれる質問です。簡単に答えると、「大学時代に興味をもった翻訳の勉強をしたいと思った際に、翻訳学のコースを設置している大学院が日本にはほとんどなかったから。」しかし、根本的なきっかけは昔から心の中にある憧れで、それが大学時代の様々な経験によって留学の実現へと私を突き動かしたのだと思います。

初めて留学を意識したのは、須原先生が授業の合間にしてくれる先輩たちの話を聞いた時でした。須原英数教室には小学5年生から浪人時代までの9年間お世話になっていましたので、そういった先輩の話をたくさん聞くことができましたし、話に出てくる先輩と教室で実際に会える機会にも恵まれました。身近にすごい人がいるのだと憧れを抱いたことを覚えています。自分が実際に留学するかどうかはまだ全然考えていない頃でしたが、海外に対する憧れは強くて、もともと英語の勉強が好きだったこともあり、教科書の暗写テストや速読英単語は人一倍頑張っていました。

大学時代に所属したサークル ^{アイセック} (AIESEC) も須原英数教室の先輩から影響を受けました。そのサークルは海外インターンシップの運営・サポートする活動を行うもので、世界110の国と地域に支部のある団体です。海外インターンシップは、日本の学生が海外の企業やNPO/NGOでインターンシップを行う事業と、日本の企業で海外の学生がインターンシップを行う事業の2つの軸からなっています。そのため、国内外の学生や企業の方と接する機会がたくさんありました。インド・中国・フィンランド・ポーランドなど様々な国籍の学生と友達になり、海外をぐっと近くに感じることができました。

留学につながる、もう1つのきっかけは大学3回生からの寮生活です。学部によっても違うのですが、同志社大学は3回生からキャンパスが変わります。通学時間が長くなったという口実のもと、リチャーズハウス¹という留学生と日本人学生と一緒に暮らす寮に入りました。イベント係を引き受けたので全ての寮生と仲良くなれましたが、特に同じ階の子たち（日本

¹ 残念ながら、現在は留学生のみの寮に変わってしまったそうです。

人・台湾人・ドイツ人)とは家族のようになんでも話せる仲になりました。留学生たちが学部生でも院生でも自分のやりたい勉強にまっすぐに進んでいっている姿を間近で見ている、大学院留学の道を考え始めました。

海外の大学院に進学したいと言いだした時は両親に反対されましたが、須原先生にも援護してもらったおかげで、応援してくれるようになりました。大学卒業後に個人での大学院留学で、ビザの手続きや大学院選びなどわからないことも多々あり、留学フェア等に参加して情報収集したり、経験者の中井雅佳先輩²にアドバイスをいただいたりしました。留学先をイギリスにしよう決めてからは、SI-UK というイギリス留学のサポートを無料で行ってくれる会社を利用していました。ここは本当に無料で大学院の出願やビザ申請のサポートをしてくれるので、イギリス留学を考えている人にはおすすめです。

ロンドンでの勉強

大学院での勉強が始まる前に、8週間の英語コースを受講しました。初めての留学だったので、生活に慣れるためにも早めにロンドンについて良かったと思っています。英語コースでは、午前中にライティング・リーディングの授業があり、昼休憩をとった後、リスニング・スピーキングの授業がありました。ライティングは同志社の授業でたたくき込まれたおかげ³で、基本的なことは問題なく理解できましたが、引用文などの扱いが非常に厳密なのでレポートを書くときは毎回苦労しました。

英語コースのクラスメイトは、学部生と院生が入り混じっていて、日本人3名・中国人3名・韓国人・チュニジア人・イタリア人・ブルガリア人・フランス人・ロシア人の計12名で、専攻もそれぞれ違うので色々な話ができて面白かったです。ただ、始めはイタリア人やフランス人の話す英語が聞き取りにくくて、慣れるまでは何回も聞き直していました。エッセイとプレ



英語コースのクラスメイトと公園でランチ
(ピースしているのが私です)

² ボストンへの留学についての話を「教室だより」で執筆されたことがあるので、ご存じの方もいると思います。非常にユーモアがあって、優しい先輩です。

³ 英文学科では1・2回生で基本的な英語論文の書き方を学んでいました。ゼミのレポートはほとんど英文記述でした。

ゼンテーションのテストがコースの最後にあつて、これに合格点をもらったことで、大学院の授業にもついていけるかなという自信をつけることができました。

イギリスでは大体1年間で修士号が取れます。私の通っていた大学院は、9月末から始まる3学期制（秋学期・春学期・夏学期）で、最後に試験と修士論文の提出がありました。秋学期（9月末～12月半ば）と春学期（1月初旬～3月末）は11週間（5週間の授業+Reading Week⁴+5週間の授業）で、夏学期はイースター休暇明けの4月初旬から始まって、たいてい試験前の復習授業が行われます。今年の試験はオリンピックがあつたので早まり、4月末から始まり遅くても5月中に終わっていました。試験は科目によっても違いますが、2~3時間の論述問題の場合が多いです。修士論文は指導教官のチェックを受けて9月半ばに提出して、結果は12月ごろにわかります。でもなぜかSOASの卒業式は翌年の7月にあるので、まだ私は卒業式には出ていません。

私は翻訳学を専攻して、必修科目の Translation Theory（翻訳学の歴史や理論）・Practical Translation（英日・日英翻訳の実践）や選択科目の Translation Technology（翻訳ソフト等の意義や使い方）・Syntactic Structure of Japanese（日本語の統語論）を学びました。授業数はそれほど多くないのですが、読まなく

てはいけない文献や課題もあつたので、慣れるまでは大変でした。初めて提出した翻訳理論のレポート課題はひどい結果

（49%⁵）で返ってきて、この時が一番へこみました。ちゃんと卒業できるのかと本当に不安になりましたが、他の課題の提出期限が迫ってきていたので、くよくよする時間がありませんでした。同じ



ロンドン大学 東洋アフリカ研究学院（SOAS）

失敗を繰り返さないために、自分のレポートのどこが悪かつたかなどを先生に教えてもらったり、英語ネイティブの友達に英文のチェックをしてもらったりして最善を尽くしました。その結果、次の翻訳理論のレポート課題の成績は63%に向上しました。翻訳の日本語学科のクラスメイトは約15名（日本人10名・イギリス人2名・トルコ人・ポーランド人・リトア

⁴ 授業期間になかなかできない参考文献の読み込みをする期間。学生は1週間の休みだとウキウキしつつも、Reading Week明けの課題提出にビクビクします。

⁵ イギリスの成績評価は、0~49%が Fail(不可)・50~59%が Pass(可)・60~69%が Merit(良)・70~100%が Distinction(優)となっています。

ニア人など)で、和気あいあいとしていて皆で助け合って頑張ろうという雰囲気でした。そういったコース内の雰囲気も後押しとなって、卒業まで頑張れたのだと思います。

ロンドンの留学生活

京都で寮生活をしている時、程度の差はあっても留学生たちは「外国人」だと意識して生活しなくてはいけなくて、それが多少なりともストレスになっていました。だから、私はそういったストレスがあると覚悟してロンドンに行ったのですが、ロンドンは東京の比にはならないくらいに国際色豊かで、様々な国籍の人たちが暮らしていて、自分のことを「外国人」だと感じることは全くなかったです。そういった意味では非常に暮らしやすい所だと思います。治安面においては、「想像していたよりも安全だな」というのが私の所感です。もちろんスリやニセ警官などはいますが、最低限の注意を怠らずに生活していたら問題なく楽しく生活できます。24時間運行しているバスがあって飲み会の時は便利でした。

「イギリス料理はまずい」と留学前に色んな人から言われましたが、実際はカロリーのこときえ目をつぶれば、結構美味しかったです。基本的に自炊していたので、たまにしか食べませんでしたが、私のお気に入りには **Fisherman's pie** (魚介類とクリームソースの上にマッシュポテトをのせて焼いた料理) と **Sunday Roast** (鶏・豚・牛・ラムなどの肉や野菜をオーブンでじっくり焼いた料理) です。また、ロンドンのいいところは色んな国の料理が美味しく食べられるところです。イタリアン・中華・インド料理はもちろん、和食(ちょっと高いのですが)・トルコ料理・タイ料理・ベトナム料理などたくさん揃っています。

大学院の勉強は一生懸命頑張りましたが、遊びもたくさんしました。そのメリハリも須原英数教室で培ったものです。私が留学した年は **Diamond Jubilee**(エリザベス女王の即位60周年)やオリンピックがあったので、イベントが多くて非常に面白くてラッキーでした。楽しいことも多かったので、幸いなことにホームシックになりませんでした。スカイプで家族と簡単に連絡ができたり、日本から友達が遊びに来てくれたおかげです。また私のことを考えてくれている人がいると事あるごとに感じられたおかげもあると思います。須原先生を介して、ロンドン滞在歴のある中井さん(先生の高校の同級生)や現在もロンドンにお住まいの満山さん(中井さんのお知り合い)とお会いすることができました。満山さんは現在ロンドンで福島県人会の会長を務めていて様々なボランティア等を精力的に行っている方で、色々な経験談を教えて下さいました。中井さんとは帰国後に初めてお会いしたのですが、留学中にメールのやり取りをさせてもらっていました。頂いたメールの中で「一生懸命勉強して、

貴女に相応しい天職（calling）を見付けて下さい」と励ましてもらったことがずっと心の中に残っています。

後輩の皆さんへ

留学したい人も、そうでない人もそれぞれの「憧れ」に向かって頑張ってください。まだ何をしたいかわからなくても、焦らないで考えて、色んな事を経験したら見えてくるものもあるかもしれません。憧れに少しでも近づきたくて努力していても、自分はそんなに能力ないからダメだという諦めと自分だって頑張れば出来るはずだという想いで葛藤することが多々あると思います。そんな時、私は「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る⁶」という言葉の思い出し、どんな自分になりたいかを見つめ直します。皆さんはどんな人になりたいですか。私の経験が少しでも皆さんの糧となれば幸いです。

12月に帰国しました知代ちゃん（私は未だに原さんのことをこう呼んでいます）に、食事をご馳走するからロンドンでの体験を書いてくれないかと頼みました。

中井博重君は私の高校時代の親友で、今も月に2・3度昼食を共にしています。大学卒業後父親の紳士服の店を継ぎ、紳士服業界からロンドンに留学させてもらった経験があります。当時、毎日放送TV『我ら世界に羽ばたく』という30分番組に主人公で取り上げられて、エジンバラ公のズボンを縫っている修行中の彼の様子が放映されました。ロンドンに彼の店が今でも残っているらしいです。

満山さんはその時以来の中井君の知り合いで、40年ほどロンドンに在住されて日英のために尽力されているご様子です。東日本大震災で津波の被害に遭われた方を援助しようと活躍されていて、ロンドンにも『福島公園』を作られたそうです。もう1年ほど留学が延長できればいいなと考えて、満山さんに相談しお力になっていただいたのですが、イギリスの経済も非常に厳しい状況にあり、EU加盟国以外の国の人間には以前のように留学延長が容易には認められませんでした。

アイセック委員会は、日本には30ほど各大学にあるらしいです。初めは私の長女三樹（上海在住）の時にその存在を知り、知代ちゃん、その後輩の松原日佳理ちゃん（同志社大学1年）と繋がっています。

⁶ この言葉にピンときた人は、間違いなく須原英数教室の生徒ですね。分からない人は教室の2階を見てください。

「一流」に触れること(2)

1979年3月に結婚をし、4月から須原英数教室を開きました。結婚に際し私は『サザエさん』のような陽気で明るい女性を妻に求め、NHKで放映されていました『大草原の小さな家』のチャールズ・インガルスのような父親・夫・男性を理想として自分自身に求めました。その二つを併せ持った家庭を築きたいと未来の妻に話をしていました。

子供の頃良く愛読していた『サザエさん』を前からと後ろからと二人で少しずつ買い求め、全68巻が揃ったところで結婚をしました。結婚の1年ほど前に、朝日新聞に『サザエさんうちあけ話』が30回、半年余りにわたって連載されました。それを妻は全部切りぬいて保存してくれていました。今も大切に残しています。第1回と第2回そして最終回を載せて、ご紹介しましょう。当時の新聞の活字は今から見れば大変小さいので、恐縮です。

【第1回】



『一流』に触れるべきだという考えを私は学生時代からすでに持っていました。『うちあけ話』の第2回目にその考えを更に強めた面白い話が載っています。長谷川町子さんの漫画家としての才能は素晴らしいと思いますが、それを引き出した点において町子さんのお母さんの存在が大きかったのではないかと考えています。『わが子、他人の区別なく、才能をひき出すことに快感を覚えるタチなのですね。』と書いておられますように、町子さんやお姉さんばかりでなく、大工さんや植木屋さんにまで自分が費用を出して『一流』に触れさせたお母さんは何て素晴らしい方だろうと、私は手本にしたいと思ったことを覚えています。加賀田先生に教え子の指導をしていただいたことは、『一流』に触れる素晴らしい機会でした。昨年興国高校を訪問しました折、草島葉子副校長先生よりいただいた興国グッズの中の一つ『日々のことば』にも同じような表現がありました。子供時代に『一流』の人や物に触れることは、実に大切なことだと考えています。

【第30回】(最終回)

おとなさんサンデー

サガエさん うちあけ話
そして今は
30
長谷川町子

1. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

2. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

3. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

4. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

5. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

6. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

7. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

8. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

9. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

10. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

11. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

12. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

13. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

14. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

15. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

16. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

17. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

18. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

19. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

20. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

21. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

22. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

23. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

24. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

25. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

26. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

27. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

28. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

29. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

30. 母は、昔話もできない、もうお母さんはいないのと同じです。諸行無常です。

短信

◎嬉しいお知らせ 25年度進学状況

私立中学校受験

- ・開明中学校 スーパー理数コース 1名 高安西小 (とび級 B 私立中学受験教室)
- ・金光八尾中学校 特進Ⅱコース 1名 高安西小 (とび級 A 公立中学進学教室)

高校受験、大学受験につきましては次回の『教室だより』でまとめてお知らせします。

◎11月22日(木)大阪産業創造館にて『学習塾百年の歴史—塾団体五十年史』の関西地区出版報告会を開きました。6年の歳月をかけ、160名の執筆者、全国24名の編集委員による、1170ページの歴史書です。関西・中四国の編集委員でしたので私が司会をして、原稿を書いていただきました灘中学校高等学校和田孫博校長先生・東大寺学園中学校高等学校矢和多忠一校長先生。五ツ木書房代表取締役専務岡本不二男様にご挨拶をしていただきました。(写真左が和田校長先生、右が矢和多校長先生)



◎写真で半年余りを振り返ります。

夏休み、高校数学の特訓中！中学受験生も朝から算数頑張っています！





左：今年の高校3年生は2人だけ、しゃぶしゃぶ食べ放題で受験生激励会。さすが良く食べました。(2012. 8.)



上と左：立命館大学2年生岸田崇史君来訪。お土産のドーナツに高校受験生たちも笑顔！先輩のアドバイスや体験を真剣に聞いています。(2012. 8.)



下：5月から11月まで8月を除く毎月第1日曜日の夜に『日曜サロン』を開いています。皆さん飲み物や食べ物を持参し、保護者の皆様同士の触れ合いの場を楽しんでいます。最終回の様子です。5月の再開をお楽しみに！
(2012. 11. 4.)



上：お話にも熱が入って来ました！
下：非常にアットホームな雰囲気です。





上：30年近く前の教え子の保護者とのお付き合いも未だに続いています。伊勢の方に引越をされて
 久しいですが、私の大好物である伊勢エビを送って下さいます。茹でたてを堪能しました。(2012. 12.)



夏休みには小学生諸君たちと関屋のプールに行き
 ました。楽しい一日でした。子供は元気やなあ…。
 僕のカーチャンも元気ねえ…。(2012. 8. 21.)



左：私の水着姿は『公序良俗』に反するようですので
 この程度で…。



龍谷大学3年
 清水仁君来訪。
 サンスクリッ
 ト語を披露し
 てくれました。



下：大学が夏休みになりますと卒塾生の来訪が相次ぎます。写真を撮り忘れた諸君、ごめんなさい。以下にその特集を載せます。筑波大学清水哲君、奈良女子大学石谷茜さん、同志社大学松原日佳理さん、兵庫県立大学松本みなみさんです。在塾生と記念撮影。先輩と後輩がとても仲良しです。



左：大阪市立医学部5回生の澤内さんと山本君。一ヶ月早い忘年会です。『無法松』は大学受験生たちとよく行くお店です。とてもおいしいですよ。店長さんがデザートをいつもご馳走して下さいます。ありがとうございます。

上：立命館大学生の飯田晃君は就職内定の報告に来てくれました。



卒塾生たちはお土産を持ってきてくれますし、在塾生たちは修学旅行や家族旅行の折にお土産を買ってきてくれますので、授業の休憩時間『おやつタイム』では居ながらにして全国各地の名産品を口にできるのが我が塾生の特典でもあります。

左：富山大学の溝端亮君のお土産を小学生といただいています。

右：簡単な理科の実験をすべて英文で手順や解説がなされている教材が出来ました。使ってみると好評でした。単語カードも付いており、小学生には英語と実験に親しみが持てるものだと思います。(2012. 7.)



中学3年生夏期合宿。勉強は一切ありません。費用も要りません。沢山差し入れをいただきます。買い出し、料理等すべて自分たちでなくてはなりません。お母さんの有難みがわかる生きた勉強です。(2012. 8. 19.)



『おゆば』でひと風呂浴びて、そのあとかき氷などをワイワイいながら食べます。

塾の先生をしていて一番嬉しいことは教え子たちが訪問してくれることです。大学生や社会に出て活躍してくれている姿を見ると塾の先生をやっている幸せを感じます。辻本好子さんと成田友亮君が私たち夫婦を夕食に招待してくれました。教え子たちに食事をご馳走になるのは初めての経験でした。心温まるひとときでした。田中征洋君と同期の二人です。田中君、次は君の築地のお寿司楽しみにしているからね！（笑）（2012. 8. 5）



左：私の教室を象徴している写真です。中学受験の6年生と5年生、大学受験の高校3年生が仲良く昼食をとっています。学校や学年が違っても、年上の子は年下の子の面倒をみ、後輩は先輩の背中を見て成長します。（2012. 8. 6.）

右：本当によく教え子たちが来てくれます。琉球大学杉山沙希さん（右）と北里大学の依里さんの双子ちゃんです。（2012. 8. 6.）
年始年末も来訪者が多いです。夏も顔を出してくれた大学1年生5人とロンドン帰りの原知代さんと東大文I 4年生の弟の光平君です。先輩たちの話に後輩諸君は耳を傾けます。娘の三加も帰省しておりました。（2013. 1. 4.）





毎年、山本神社に初詣に出かけます。近くの中華料理店『宝来』で昼食です。いつもアイスクリームをサービスしてもらえます。安くおいしいお店です。(2013. 1. 6.)



右：せっかく大晦日に来てくれた京都府立医科大学1年生谷口敦基君、お正月結婚の報告に彼女を連れて挨拶に来てくれた外科医の原幹太郎君。披露宴出席が楽しみです。写真を撮るのを忘れていました。ごめんなさい。また来て下さい。愛媛大学大学院1年生の松葉成生君は、毎年愛媛から蜜柑を一箱持参してくれます。年末にはなかったなあと話しますと一ヶ月後ポンカンを届けてくれました。(笑) 幼い頃からの大好きな果物です。小学生もご相伴にあずかりました。おいしかったね。(2013. 1. 29.)



◎高校時代の恩師から大変嬉しいお便りをいただきました。(左上)

『学習に限らず「動機づけ」がだいじです。これを意識して指導している人は、そう多くはありません。「学校の授業をたいせつにすること」。逆を行っている予備や塾があります。「三十五年目」。エールを送ります。』というものでした。これを励みにまた頑張ります。

◎東京大学新聞によりますと、2014年度より本格的に中国語の学習を強化して『英中トライリンガル』に力を入れるそうです。英語は出来て当たり前の時代がやって来ているのですね。

◎保護者の方や生徒諸君から我が子のことをよく聞かれます。2年ぶりに近況をお知らせいたします。

長男正光は千葉県旭中央病院での3年間の勤務を終え、昨年4月から母校の東大病院に勤めています。血管外科医としての専門医の認定を受け、後進の指導にも当たっています。今年4月からは大学院に進みます。

お嫁さんのご両親の助けを受けながら双子の男児、煌成（こうせい）と大耀（たいよう）の世話を新米パパとママは子育てに奮闘中です。認知症の母親の世話があり、私たち夫婦は中々上京も思うようにできないのが残念です。昨年9月上京の折のスナップです。



左：長男夫婦。左が煌成、右が大耀です。 中：寝姿は早くも私に似てきたかな…（大耀）。 右：『この人は誰かなあ…？』（煌成）

●大学院で学ぶ

宮錦 達史

《国際公共政策研究科 博士前期課程 2009年卒業
外務省職員（現在中国・復旦大学へ留学中）》

私は、2009年4月に外務省に入省、アジア大洋州局中国・モンゴル課での勤務を経て、2011年8月から中国・上海の復旦大学に留学しています。

私がOSIPPへの進学を希望したのは、開発経済学、特に途上国における農村地域の貧困削減について研究したいと考えたからです。

私は学部生の時は外国語学部在籍していたため、OSIPPに入学する際には経済学はほとんど未習と言ってもよい状況にあり、短期間で経済学の基礎を身に付ける必要がありました。幸い OSIPPには、それぞれの専門分野のディシプリンを集中的に習得できるようなカリキュラムが組まれており、私も同級生たちと切磋琢磨しつつ、短期間で経済学を基礎からしっかり学び、翌年には国家公務員試験に経済職で合格することができました。

OSIPPの勉強すべき特徴の一つは、学術研究を重視する点にあると考えます。全ての在学生在に修士論文を課すことによって、学生に学術研究の基本的な考え方、つまり問題発見から仮説設定、分析、結論に至る一連の流れを理解させ、科学的な思考方法を習得させることができます。私も最終的にはインドの小規模食品産業の生産効率性に関する実証研究を論文として仕上げることができ、これを通じて学術研究の方法論及び重要性を認識することができました。現在、学術研究は高度化・専門化が進んでいますが、複雑化するさまざまな社会問題に対して政策を企画・立案する「官」においても、このような専門知識を持つ人材が必要不可欠になってきており、OSIPPはそれを学ぶ機会を用意してくれています。

OSIPPのもう一つの特徴は、その多様かつ国際的な環境にあると思います。法学・政治学・経済学といった学問的多様性に加え、社会人学生・留学生が多いことによる経験的・文化的多様性もあり、日々刺激に事欠くことはありません。さらに、OSIPPは国際的な活動の機会を与えてくれ



ます。私は博士前期課程1年生の時、OSIPPの授業のサポートを受け、国際協力機構インド事務所でも3か月間インターンをしました。国際機関や国際NGOでインターンをされた先輩・同級生も多くいました。

このように OSIPP は貴重な学び・活躍の場を与えてくれます。国際的に活躍しようという志がある方は是非その門を叩いてみてください。

娘婿の宮錦（みやき）達史君です。大阪大学のパンフレットに取り上げていただきました。上海の復旦大学で中国語による経済学を勉強中です。写真は大学正門前です。身最頂かもしれませんが、非常に誠実で、素朴な好青年です。



復旦大学校舎の一つです。



長女三樹も復旦大学で中国語を勉強中です。上海と日本を行き来しながら研究を続け、今春からは日本学術振興会の特別研究員として『教育財政学』の研究に更なる一歩を踏み出す予定です。



長女夫婦、上海豫園近くにて（2012. 10.）

次女三加は横浜の中央水産研究所に非常勤で勤め、週末は大好きなパルーンアートに打ち込んでいます。昨年10月末、東京大学柏キャンパスにある母校大気海洋研究所のオープンキャンパスのデコレーションを担当しました。『大変な好評』だったそうです。12月には大阪ガスのガス展でも活躍していました。



上：5階吹き抜けの迫力はすごいものでした。



下：梅田阪急百貨店ガス展会場。



子供の笑顔は素敵です。



編集後記

現在、京都知恩院のご住職をされているらしいですが、元上宮学園の校長先生をされておられた安井良道先生という方が、『教育は教えることばかりではなく、育てることもしなければならない。教師は教えることばかりではなく、師として尊敬されなくてはならない。』と講演で話されたことがあります。

また、私が精神的な父として慕っています大学時代の恩師からは、『須原君、クラスに生徒が50人いても50:1ではないよ。教育は1:1だ。』と教えていただいたことがあります。いずれも十数年前の話ですが、私は心に留めています。

この半年余り、公立私立を問わず、学校の先生方や生徒諸君に講演をする機会を与えられて、これまで夫婦二人で積み上げてきたことをお話することが出来ました。特別なことをやってきたという意識はまるでありません。その時々にかかれと思った最善のことを、コツコツとやってきたにすぎないと思っています。ただ、そのことがお役に立っているのかと思いますと本当に嬉しいです。塾が社会に認知されてきたように、家庭教育・学校教育の中から生まれてきた『塾教育』が、少しずつでも認知されていくことが出来ればこの上ない喜びでもあります。これからも『町の教育家』を目指して精進したいと思っています。

『教室だより』第127号、ご一読いただければ幸いです。

ホームページを開いています。
『須原英数教室』で検索してご覧いただければ幸いです。

1979年 創塾
講師を雇わず夫婦二人で指導

『学校の授業』と『自分の勉強』を大切にさせ、その『自分の勉強』を学習面ばかりでなく精神面においても生徒諸君を支えていこう、と考えて指導している教室です。

〒581-0866
八尾市東山本新町5丁目8-1
Tel 072 (996) 7616・(996) 1020
Fax 072 (996) 1026
hlk@alpha.ocn.ne.jp

国際教育学会 (ISE) 正会員
全国学習塾協会・関西私塾教育連盟 正会員

須原英数教室

